

第2章 脱炭素社会実現実行計画

第1節 計画の概要と温室効果ガスの削減状況

1. 計画の位置付け

本計画は、地球温暖化対策の推進に関する法律及び気候変動適応法に基づく法定計画であり、「福島市環境基本計画」の個別計画です。

上位計画とともに、「福島市一般廃棄物処理基本計画」「福島市地域公共交通計画」等の関連計画と連携を図っていきます。

2. 計画の対象・基準年度、目標年度

(1) 対象物質、対象範囲

温室効果ガスの削減対象物質は、エネルギー起源のCO₂（二酸化炭素）、農業分野からの温室効果ガス（CH₄（メタン）、N₂O（一酸化二窒素））、廃棄物からの温室効果ガス（CO₂、CH₄、N₂O）とします。また、市民、事業者、行政の活動に伴う排出を対象範囲とします。

対象	部門・分野
市民	家庭部門 運輸部門（自動車） 廃棄物からの温室効果ガス
事業者	産業部門（製造業、建設業、農林水産業） 業務部門 運輸部門（自動車、鉄道） 農業分野（耕作、畜産、農業廃棄物） 廃棄物からの温室効果ガス
行政	廃棄物からの温室効果ガス

(2) 基準年度、目標年度

本計画の温室効果ガス排出量削減の基準年度を平成25（2013）年度とし、令和32（2050）年度を長期目標、令和12（2030）年度を第1期目標年度とします。

3. 温室効果ガスの削減目標

本市では、基準年度である平成25（2013）年度の温室効果ガス実質排出量2,493.3千t-CO₂を令和12（2030）年度に55%削減します。また、長期的目標として令和32（2050）年度までに実質ゼロを目指します。

温室効果ガス実質排出量の削減目標

令和12(2030)年度 平成25(2013)年度比 **55%削減**

令和32(2050)年度 福島市ゼロカーボンシティ(温室効果ガス排出量実質ゼロ)

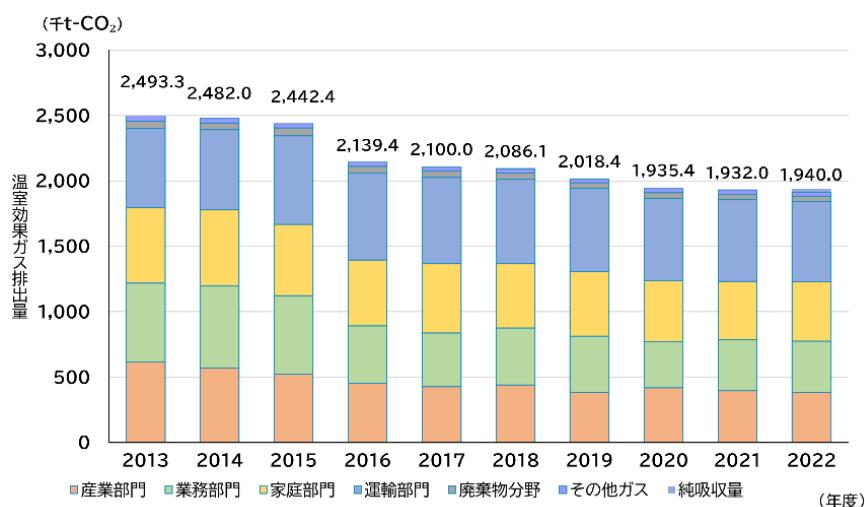
4. 温室効果ガスの削減状況

(1) 温室効果ガス実質排出量

本市域における令和4（2022）年度の温室効果ガス実質排出量は、1,940 千t-CO₂であり、基準年度（平成25（2013）年度）と比較して22.2%の減少となりました。

なお、排出量を算定するための各種統計データが出そろうまで約2年かかるため、最新のデータは2年前の年度となります。

年度	温室効果ガス実質排出量	基準年度比
平成25（2013）	2,493.3千t-CO ₂	—
平成26（2014）	2,482.0千t-CO ₂	▲0.5%
平成27（2015）	2,442.4千t-CO ₂	▲2.0%
平成28（2016）	2,139.4千t-CO ₂	▲14.2%
平成29（2017）	2,100.0千t-CO ₂	▲15.8%
平成30（2018）	2,086.1千t-CO ₂	▲16.3%
令和元（2019）	2,018.4千t-CO ₂	▲19.0%
令和2（2020）	1,935.4千t-CO ₂	▲22.4%
令和3（2021）	1,932.0千t-CO ₂	▲22.5%
令和4（2022）	1,940.0千t-CO ₂	▲22.2%



(2) 部門別の温室効果ガス排出量の状況について（前年度比）

a) 産業部門（前年度比▲3.3%）

事業者における省エネルギー化の取り組みが進んでおり、特に製造業における燃料消費量が減少したことにより、排出量が減少しました。

b) 業務部門（前年度比+0.6%）

新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んでいた経済活動が前年度と比較して回復傾向にあり、燃料使用量が増加したことにより、排出量が増加しました。

c) 家庭部門（前年度比+2.0%）

冬季における平均気温が前年度と比較し低かった影響で、電気や灯油などの燃料消費量が増加したことにより、排出量が増加しました。

d) 運輸部門（前年度比▲2.2%）

電動車登録台数の増加や燃費の向上等から燃料消費量が減少したことに伴い、排出量が減少しました。

e) 廃棄物分野（前年度比▲3.1%）

プラスチックごみや合成繊維の焼却量が減少したことに伴い、排出量が減少しました。

f) 農業分野（前年度比▲2.9%）

水田の作付面積が減少し、水田から発生する温室効果ガスが減少したことに伴い、排出量が減少しました。

（4）温室効果ガス純吸収量について

温室効果ガスの純吸収量は、▲26千t-CO₂（「森林による吸収量（38千t-CO₂）」－「主伐による排出量（64千t-CO₂）」）です。里山・広葉樹再生プロジェクト（福島県）や東京オリンピック関連施設への福島県産木材の提供などにより、樹木の成長量より伐採量が上回ったため、このような結果となりました。

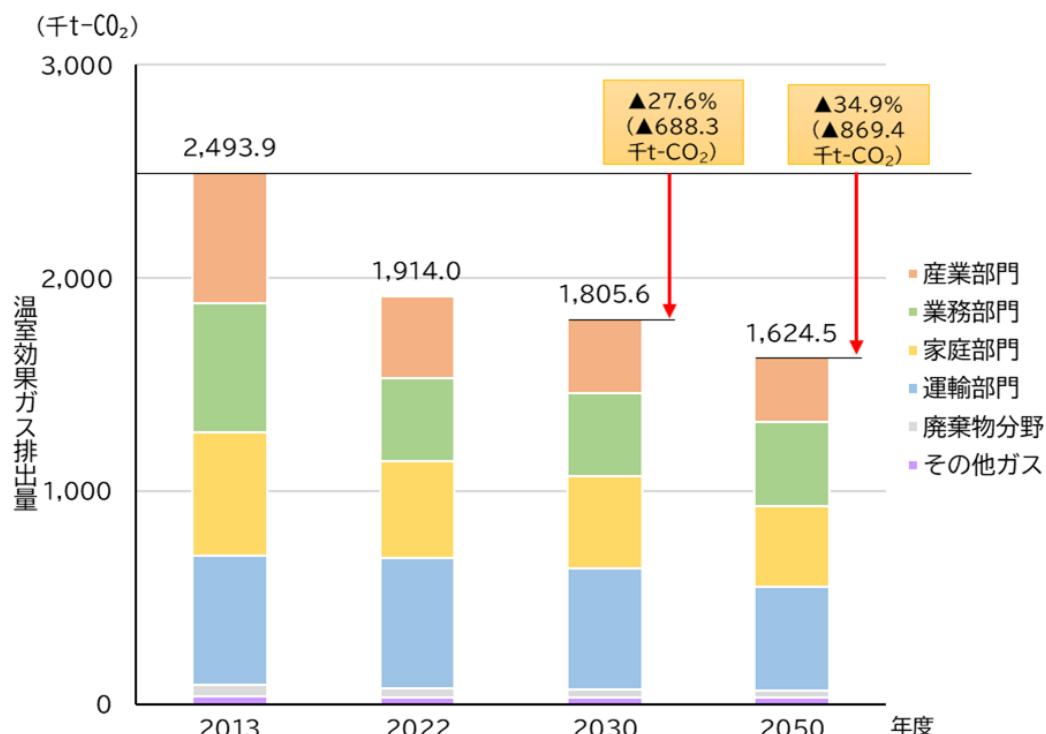
5. 温室効果ガスの将来推計

今後追加的な対策を講じず、温室効果ガス排出量と関連する活動量（社会情勢や人口等）が経時に変化した場合の各部門の温室効果ガス排出量及び森林における純吸収量を推計した結果、令和12（2030）年度には1,805.6千t-CO₂（平成25（2013）年度比で27.6%削減）、令和32（2050）年度には1,624.5千t-CO₂（平成25（2013）年度比で34.9%削減）となりました。

令和32（2050）年度に温室効果ガス実質ゼロを達成するためには、再生可能エネルギーの最大限の活用、ライフ・ワークスタイルシフトによる省エネルギー・省資源の推進、吸収源対策などにより、各部門において排出量の削減を行っていく必要があります。

そのため、第1期目標年度の2030年度（55%削減）に向けては、既存の技術の積極的導入により排出量の削減を図ることとし、2030年度以降については、施策の進捗や新技術の動向などの状況も勘案しながら段階的に取組を進めていきます。

温室効果ガス排出量将来推計値



第2節 再生可能エネルギーの導入拡大と効果的な活用

1. 多様な再生可能エネルギーの最大限の導入

脱炭素に貢献する住宅設備への助成や利子補給の実施、また次世代エネルギーパークを活用するなどし、再生可能エネルギーの普及啓発を行いました。

また、災害時の防災機能強化も目的として、福島市役所複合棟や松陵義務教育学校へ太陽光発電設備を導入しました。

(1) 脱炭素住宅整備助成事業

家庭の再生可能エネルギー導入を推進するため、平成22年度より太陽光発電システムの設置費用の一部を助成しています。令和3年度からは蓄電池システムや電気自動車充給電設備（V2H）、ホームエネルギー・マネジメントシステム（HEMS）の設備に対して、令和5年度からは家庭用電気自動車充電設備に対しても助成を行い、脱炭素住宅の整備を推進しています。

年 度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
助成件数	497件	419件	341件	376件	340件	429件	398件
助成金額	56,802千円	31,961千円	25,959千円	38,190千円	33,250千円	35,885千円	34,490千円
設置出力	約2,532kW	約2,082kW	約1,644kW	約2,043kW	約1,908kW	約2,261kW	約2,157kW

(2) 福島市次世代エネルギーパーク計画推進事業

次世代エネルギーパーク計画は、再生可能エネルギーをはじめとした次世代のエネルギーに、実際に見て触れる機会の増加を通じて、地球環境と調和した将来のエネルギーの在り方にに関する理解の増進が図られる計画を、経済産業省資源エネルギー庁が認定するものです。本市は、平成27年10月30日付で次世代エネルギーパーク計画の認定を受け、「福島市次世代エネルギーパーク計画」に位置付けられている施設（令和6年3月末現在9施設）を活用して、再生可能エネルギーに関する学習機会の拡充や情報発信等を行っています。

<令和6年度実績>

- ・視察受入等：5団体、80名
- ・会議開催・参加等：2回、5,892名

<福島市次世代エネルギーパーク計画関連施設>



2. 水素を中心としたエネルギーの効果的な活用

事業者や行政等が一体となって福島市を中心とする地域における水素社会の実現に向けた取組を総合的かつ計画的に推進するため、福島市水素社会実現推進協議会において水素社会に関する意見交換を行ったほか、水素エネルギーに関する普及啓発イベントを実施しました。

3. 域外エネルギーの利用促進

福島水素エネルギー研究フィールド（FH2R）で製造された浪江町産の水素の供給を受け、令和7年3月に供用を開始した福島市役所複合棟で利用するため、関係機関と協議を行いました。



ふくしま水素ひろばの様子



福島市役所複合棟に設置した純水素燃料電池

【目標（指標）】

	基準値	実績値	目標値		令和6年度 目標に対する 進歩率	評価
	平成25年度	令和6年度	令和6年度	令和12年度		
エネルギー自給率 (電力)	23.5%	49.2%	49.0%	63.0%	100%	A
水素利活用・製造・貯蔵 施設数（純水素に限る。モビ リティを除く。）	2施設	2施設	3施設	5施設	67%	C
地域新電力事業者数	1社	1社	1社	3社	100%	A
水素調達・供給拠点数	1箇所	2箇所	1箇所	3箇所	100%	A

本計画は環境基本計画における地球温暖化対策分野の個別計画であることから、目標（指標）により計画の進捗状況を把握し、定期的に評価・分析を行います。

＜目標（指標）の進捗状況＞

環境基本計画の進行管理指標と同様に、令和元年度を基準に進捗率を算出します。（P10 参照）
なお、年度ごとの目標値の設定は、目標値から基準値を差し引き、計画期間（10年）で除します。
ただし、指標によってはこれに当てはまらない場合があります。

第3節 省エネルギー・省資源に向けた ライフ・ワークスタイルシフト

1. 交通・移動に関するシフト

国が実施するエコ通勤に県、民間事業者等と連携して取り組みを推進したほか、パークアンドライドや宅配便等の受け取りにおける再配達防止などの普及啓発を行いました。

中心市街地においては、「MOMORIN（ももりん）シェアサイクル事業」を実施し、自転車利用を推進しました。



福島駅東口のサイクルポート

2. 建物・住宅等に関するシフト

本市では、太陽光発電設備導入への助成に加え、令和3年度からはHEMS（ホームエネルギー・マネジメントシステム）や家庭用蓄電池等への助成を行っています。

また、令和7年3月に供用を開始した福島市役所複合棟では太陽光発電設備（20kW）や純水素燃料電池（5kW）により施設で使用する電力の一部をまかない、環境負荷軽減を図りました。



福島市役所複合棟

3. 廃棄物に関するシフト

家庭系資源にできない燃やすごみのうち約4割を占める生ごみの減量を目的に、「生ごみゼロチャレンジ！」を展開し、キエ一口実演会（令和6年5月30日）や講演会（令和6年7月28日）を開催しました。また、令和6年6月号の市政によりでの特集記事掲載を契機に多くの問い合わせが寄せられることから、ダイユーエイトと連携してキエ一口セットの販売を開始するとともに、開封調査の導入やごみ名称の変更、電池類を資源物として回収をスタートさせるなど、ごみの減量化・資源化の取り組みを進めました。これらの取り組みにより、ごみの減量を進め、収集・運搬・処分の各段階における効率化を図り、環境負荷の軽減につなげました。



4. ライフ・ワークスタイルシフトを促す普及啓発・教育

快適な生活環境を維持した中で、我慢を強いることなく温室効果ガス削減に寄与していく新たなライフスタイルを提案し、省エネルギー・省資源の推進を図るため、「ふくしま環境フェスタ」や「ふくしま水素ひろば」などの各種イベントにおいても、省エネ行動の促しを実施しました。



環境フェスタの様子

5. 省エネルギー・省資源に向けた市の率先的な取組

市自身が一事業者・一消費者として、率先して環境保全に向けた取組を実行するため、ゼロカーボン庁内率先計画に基づいて、省資源・省エネルギー・廃棄物減量等に取り組みました。

クールビズやウォームビズ期間を設定せず、ノーネクタイやノージャケット等、気温や業務内容に応じた服装での勤務やエレベーターの使用控えを推奨したほか、令和6年度は公用車の電動化によるガソリン使用量の削減のためEV車2台、HV車1台を導入しました。

【目標（指標）】

	基準値	実績値	目標値		令和6年度 目標に対する 進捗率	評価
	平成25年度	令和6年度	令和6年度	令和12年度		
鉄道乗車人員数 (年間)	3,957千人	3,151千人	3,800千人		0%	D
路線バス乗車人員数 (年間)	5,412千人	4,132千人	5,000千人		0%	D
住宅総数における二重 サッシ又は複層ガラス の設置割合	33.4%	41.0%	45.0%	52.0%	66%	C
1人1日当たりの生活 系ごみ排出量（資源物・ 集資源回収除く）	770g (令和元年度)	596g	530g以下 (令和7年度)		73%	C
事業系ごみ排出量	30,926t (令和元年度)	29,110t	24,200t以下 (令和7年度)		27%	D
環境に関するイベント 等の参加者数	1,334人	11,187人 (累計) ※令和3~6年度	6,800人 (累計) ※令和3~6年度	17,000人 (累計) 毎年1,700人以上	100%	A
本市の事務事業から排 出される温室効果ガス 排出量	78,971 t-CO ₂	55,134 t-CO ₂	56,180 t-CO ₂	43,610 t-CO ₂	100%	A

第4節 温室効果ガス吸収源の確保に向けた取組の推進

1. 森林等の保全・適正管理の推進

温室効果ガスの吸収源となる森林等を保全し適切に管理するため、森林環境譲与税を財源として、適切な森林整備を実施するとともに、木材の普及啓発等の推進を図りました。

「人の生活や環境と森林の関係」について、理解と関心を深めてもらうため、「木材市場」の見学や丸太切り等を実施し、地球温暖化防止への意識向上を図りました。



「道の駅ふくしま」に隣接する屋内こども遊び場「もも Rabi キッズパーク」内の木製遊具

2. 都市緑化等の推進

身近な生活環境における緑化の推進は、温室効果ガスの吸収源としてはもちろん、ヒートアイランド現象の抑制や良好な景観の維持など様々な効果が期待されます。

壁面緑化等の取り組みを推進するため、植物によるグリーンカーテン事業を市役所本庁舎のほか、支所や学習センター、保育所等の各施設で行いました。

また、緑豊かなまちづくりについて広く市民の理解と協力を得るため、春と秋に緑化キャンペーンを開催し、緑化に関する相談、苗木の無料配布などを行いました。



グリーンカーテン（市役所本庁舎）

【目標（指標）】

	基準値	実績値	目標値		令和6年度目標に対する進捗率	評価
	平成25年度	令和6年度	令和6年度	令和12年度		
民有林整備面積	101ha	357.3ha	215.4ha	252ha	100%	A
一人当たり都市公園面積	11.09 m ²	12.24 m ²	11.85 m ²	12.37 m ²	100%	A
生垣設置事業補助対象延長（累計）	6,251m	7,021m	8,440m	8,845m	12%	D

第5節 気候変動を見据えた対策の推進

1. 農業、森林・林業分野における対策

気候変動による病害虫の頻発や栽培適地の移動などの影響を最小限にとどめるため、「環境保全型農業直接支払交付金」を活用し、環境保全型農業に取り組む農業者を支援しました。

また、気候変動への対応や農作物被害対策を強化するため、裂果防止や病害虫防除等において効果のある雨よけハウス等の果樹栽培施設等の新設・更新により品質の向上を図る果樹農家に対し、経費の一部を補助したほか、気候変動に伴う病害虫の蔓延を防ぐため、防除薬剤の共同購入に対し支援を行いました。

2. 水環境・水資源分野における対策

阿武隈川支流の17河川23地点で水質調査を実施しました。

また、地球温暖化に起因する降雪量の減少に伴い、農業かんがい期における水不足の影響が懸念されていることから、気候変動適応東北広域協議会雪分科会において、広域アクションプランの自治体への実装のため、行政機関や学識経験者等と意見交換を行い、現在取り組んでいる適応策や課題の共有を図りました。

3. 自然生態系分野における対策

気候変動が植物に与える影響を調べるため、気候変動適応東北広域協議会生物季節分科会と共同で、生物季節観測（桜の開花日、カエデ紅葉日、イチョウ黄葉日）を行い、データを収集しました。



出典：市民参加型モニタリング調査（環境省）

4. 自然災害分野における対策

災害情報などを一元的に収集・表示する災害対策オペレーションシステムの運用を行うとともに、河川水位を迅速に把握するための水位予測システムや独自雨量計等を追加し、河川水位監視の更なる強化に努めました。

また、子ども達をはじめ、様々な世代が「気軽に楽しみながら防災について学ぶ」ことを目的に、学校の運動会や授業、企業の訓練や地域のイベントに防災体験メニューを取り入れる「ぼうさい体験パッケージ」を実施し、防災意識の醸成や災害が発生した際の危機対応力の向上を図りました。

そのほか、大雨時に河川への雨水流出を抑制することを目的とした田んぼダム用排水柵の整備を進めており、令和6年度は56.4haの水田に設置しました。



ぼうさい体験パッケージの様子

5. 健康分野における対策

暑熱に対する注意喚起を図るため、熱中症の予防や対処方法等について、地域の健康教育等での周知啓発や、ホームページ、SNS及び市政だより等を活用した情報発信を行ったほか、熱中症防止対策として気軽に一時休憩ができる場所「ふくしま涼み処」を市内各所に設置しました。

また、感染症対策として、感染症だよりやホームページを活用し、蚊やダニ媒介感染症に関する情報提供（発生時の注意喚起、予防対策等）を行い、感染症の発生及びまん延の防止に努めました。

6. 産業・経済活動分野における対策

異業種交流や大学・研究機関等との産学連携により、新規取引の拡大や新たなビジネスの創出を図ること、またその取り組みをふくしま田園中枢都市圏域外へ情報発信することを目的として、圏域企業によるブース出展やプレゼンテーションを行う「ふくしま産業交流フェア～ふくしま田園中枢都市圏ビジョン事業～」を開催しました。



ふくしま産業交流フェアの様子

7. 都市生活分野における対策

防災関係機関と綿密な連携を図りながら、災害時における迅速かつ的確な防災体制の確立と市民の防災意識の高揚を図る目的で「福島市総合防災訓練」を実施しております。

令和6年度は、震度6強の地震が発生し、家屋倒壊や火災が発生している状況を想定したなかで、福島市災害対策本部や防災関係機関の迅速な対応を確認したほか、初の取り組みとなる地元自主防災組織や消防団による救出救助訓練、中継送水・放水訓練を実施しました。また、住民避難訓練の際に、マイナンバーカードを活用した電子受付の実証実験も行いました。



令和6年度福島市総合防災訓練の様子

【目標（指標）】

	基準値	実績値	目標値		令和6年度目標に対する進捗率	評価
	平成25年度	令和6年度	令和6年度	令和12年度		
環境保全型農業直接支払交付金対象面積	4,672a	3,241a	5,017a	5,500a	0%	D
民有林整備面積（再掲）	101ha	357.3ha	215.4ha	252ha	100%	A
河川の水温について10年移動平均から2℃以内を維持している地点数	23/23	23/23	23/23	23/23	100%	A
市管理河川(110河川)河道掘削/土砂浚渫の実施済数	0 (令和元年度)	86	18	40	100%	A
浸水深等標識(約440箇所)の設置数	217 (令和元年度)	415	297	440	100%	A